



J613-M0220-02 Rev.N 110131



最初にお読みください

CentreCOM® GS908M/916M/924Mリリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924Mをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。


最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.6.15

2 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.6.6 から 1.6.15 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

2.1 EP SR (トランジットノード) 有効化時の動作

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EP SR アウェア」

EP SR (トランジットノード) を有効化するときリング接続ポートが両方ともリンクアップしている場合の動作 (各種状態の設定) を次のとおり変更しました。

	バージョン 1.6.6 まで	バージョン 1.6.15 から
EP SR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.6.6 から 1.6.15 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 電源オン時、起動に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 EP SR アウェアにおいて、ENABLE SWITCH PORT コマンドによって Down のポートを Blocking に変更した場合にログメッセージが出力されていましたが、これを修正しました。また、Blocking のポートに対して、ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、同じログメッセージが 2 個出力されていましたが、これを修正しました。
- 3.3 本製品を EP SR のトランジットノードとして動作させる場合、本製品の再起動時に EP SR リング上で瞬間的なループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 本体宛ての通信負荷が高い場合に、本体発のペケットを送信できなくなり、結果的に本体宛て通信が不通になることがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 1.6.15 には、以下の制限事項があります。

4.1 フラッシュメモリーの空き容量

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」**

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

4.2 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- ファームウェアバージョン 1.4.5 で、ループガード（受信レート検出 /LDF 検出）がサポートされ、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドおよび ENABLE SNMP TRAP コマンドの TRAP パラメーターに STORMDETECTION と LOOPDETECTION の指定ができるようになりました。これにより、バージョン 1.4.0 以前で TRAP パラメーターに ALL を指定している場合、1.4.5 以降へのバージョンアップ時に設定が以下のように反映されますので、ご注意ください。

バージョン 1.3.2 以前で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION が含まれます。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

バージョン 1.4.0 で ALL を指定して作成された設定ファイル：


CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

ENABLE SNMP TRAP コマンド


→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

4.3 RADIUS サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**


802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。

4.4 フォワーディングデータベース

 **「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」**


DELETE SWITCH FILTER コマンド（または Web GUI の「機器監視 - FDB」）で、登録されているスタティックエントリーの削除を実行すると、削除失敗のエラーが表示されるにもかかわらず、スタティックエントリーは削除されます。

4.5 スイッチング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**


- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート（SFP ポート）に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

4.6 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**


- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウエアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。
なお、EPSR アウエアについては、ファームウェアバージョン 1.6.0 で CREATE EPSR コマンドに DELETETEMCAST オプションが追加され、リングトポロジチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリーを FDB から削除する設定が可能になりました。

4.7 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**


ルーターポートと通常のメンバーポートを同一ポートに設定することはできません。CREATE MLDSNOOPING VLAN コマンドでルーターポート、ADD MLDSNOOPING VLAN コマンドでメンバーポートの登録ができますが、同一ポートに設定してもエラーになりませんので、ご注意ください。

4.8 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**


SET RADIUS コマンドで DEAD-ACTION=PERMIT、DEADTIME=0 を設定した場合、認証に失敗することがあります。

4.9 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

- 本製品のインストールでは、トポロジチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。
- RSTP 環境において、6 台以上のスイッチでリングを構成した場合、スイッチ間のリンクダウンから通信復旧まで約 30 秒かかることがあります。

4.10 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- 存在しないRADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。
- 「セキュリティー設定-ポートセキュリティー」において、「全ポート変更」ボタンからセキュリティーモードを設定しようとするエラーが発生します。全ポートのセキュリティーモードを設定するには、「ポート一覧」からコンポポート以外のポートを選択して「変更」ボタンで設定するか、SET SWITCH PORT コマンドを使用してください。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。
- 「マネージメント-ポートリセット」画面において、通信速度が10Mbpsまたは100Mbpsのトランクポートを複数ポート指定してリセットした場合、link-down/link-upを検知できず、link-down、link-upメッセージが表示されない場合があります。10Mbpsまたは100Mbpsのトランクポートのリセットを実行する場合には、Web GUIではなく、コンソールまたはTelnet接続からコマンドで実行してください。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」の補足事項です。

5.1 FAULT LED の点滅条件

 **「取扱説明書」24 ページ**

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- **1 回点滅：**
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)
ファンの異常発生時
- **3 回点滅：**
電圧の異常発生時
- **6 回点滅：**
内部温度の異常発生時

5.2 サポートする MIB について


 **「取扱説明書」108 ページ**


ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにもない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

5.3 ポート認証/EPSR


コマンドリファレンスに記載がありませんが、ポート認証の Authenticator ポートと Supplicant ポートを、EPSR のリングを構成するポートにすることはできません。

5.4 各種サービスの Listen ポート変更

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」


 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「HTTP サーバー」


Telnet や FTP などのサービスの Listen ポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合（たとえば Telnet に FTP のデフォルトポート番号である 21 を設定した場合）、再起動後にその設定が記憶されません。

5.5 SNTP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNTP」


登録された SNTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

5.6 フォワーディングデータベース

 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」


コマンドリファレンスの解説編に「学習機能をオフにすると、ほとんどのフレームが同一 VLAN 内の全ポートに出力されるようになるため、スイッチというよりも HUB に近い動作となります」という記述がありますが、本製品では学習機能をオフにすることができないため、この記述は当てはまりません。

5.7 IP

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。


5.8 スイッチング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。
- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。


- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート（SFP ポート）に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリーとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスを持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。
- EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されます。

5.9 ポートミラーリング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**


- タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。
- ソースポートから送信される EPSR 制御パケットは、ミラーリングされません。

5.10 パケットストームプロテクション

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**


SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります（ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通）。

5.11 ループガード

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- 受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。
- コマンドリファレンスの解説編には「アクション実行後は、タイマーが起動し、指定した時間が経過するとアクション実行前の状態に戻ります」とありますが、タイマー満了前でも次の条件を満たした場合はアクションが解除されます（LDF 検出、受信レート検出の両機能に共通）。
 - ・ ENABLE SWITCH PORT コマンドが設定されたとき
 - ・ DISABLE SWITCH PORT コマンドが設定されたとき
 - ・ リンクダウンが発生したとき（ACTION=LINKDOWN は除く）
 - ・ ポートセキュリティの DISABLE アクションが実行されたとき
 - ・ ポートセキュリティの DISABLE アクションが解除されたとき

5.12 EPSR アウェア

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」**

コマンドリファレンスの解説編に掲載されている「トランジットノードの機能」の表（「ノードの種類」セクション）において、「デバッグ表示機能」の記載内容に誤りがありましたので下記のとおり訂正します。


誤

トランジットノードの機能	フル実装	アウェア機能 (本製品の実装)	スヌーピング機能
デバッグ表示機能	○	○	×

正


トランジットノードの機能	フル実装	アウェア機能 (本製品の実装)	スヌーピング機能
デバッグ表示機能	○	×	×

5.13 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**


- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP Snooping TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。


5.14 MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

IPv6 マルチキャストアドレスと一致した MAC アドレスのパケットを受信すると、マルチキャストグループとして登録してしまうことがあります。


5.15 IGMP Snooping/MLD Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**


ポートランキングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。

5.16 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Suppliant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Suppliant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。
- Multi-Suppliant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Suppliant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

5.17 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- コマンドラインインターフェースと Web GUI の同時操作は未サポートです。
コマンドラインインターフェースを使用している場合、コマンドの実行が完了したあと、Web GUI の操作を行ってください。
- スイッチ設定 / ポート / ポート設定画面の「設定」ボタンを押すと、対象ポートがいったんリンクダウンします。
設定内容に変更がない場合や、ポート名称だけを変更した場合などにもリンクダウンしますのでご注意ください。

6 未サポートコマンド

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
ENABLE/DISABLE/SHOW QOS
RESET PORTAUTH PORT
ENABLE/DISABLE WATCHDOG MEMORY
SHOW WATCHDOG
```

7 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.6.0 (J613-M0220-03 Rev.F)」は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※バージョン「J613-M0220-03 Rev.F」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>